

《 X 改革・改善 》

1 【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

本学の自己点検・評価の取組みは平成4年に遡る。同年11月10日の部科長会で大学審議会答申(平成3年2月)の「自己点検・評価項目(例)」を議題にあげ、早期の実施を図るべく「評価委員会(仮称)」を組織することを議決した。そして毎週開催していた部科長会の月1回を自己点検委員会とし、カリキュラム編成、授業計画など緊急性の高い項目から点検することとした。平成5年3月の教授会では「行吉学園自己点検・評価委員会規程」(当時は案。同年4月1日施行)に則り、「神戸女子短期大学自己点検・評価運営委員会規程」を作成した。同年7月20日の教授会では「学生による授業評価の実施について」を議事にして承認を得た。平成5、6年度に行った自己点検・評価の取組みは「短大の現況と点検・評価」(神戸女子短期大学、1995)にまとめている。以後、自己点検・評価の取組みは本学の教育研究及び管理運営を充実改善させる重要な基盤となり、その継続によって今日まで一定の教育研究水準を維持することができた。平成12年度は中村学園大学短期大学部と相互点検を実施した。平成17年度～平成19年度は自己点検・評価運営委員会を点検部会と評価部会の2部会構成により、学長直属の学務分掌に位置づけて点検・評価を行った。その成果は平成18年度と平成19年度の「『改善目標・改善計画案に基づく自己点検報告』の評価報告書」で公表した。現在、学内の自己点検・評価の気運は更に高まっており、毎年5月の教授会では教務部、学生部等の各委員会が当該年度の推進目標・重点を報告し、2、3月の教授会では当該年度の活動状況と翌年度の課題を報告するなど、日常的な自己点検・評価の体制が出来ている。今後は、ALOが中心となる自己点検・評価委員会と部科長会が本学の自己点検・評価の推進母体となり、全教員と助手及び事務職の部課長等が一同に会する自己点検・評価全体会議で重要事項を周知共有する体制を機能させながら、短期大学基準協会の評価基準に沿った点検・評価を着実に実施したいと考えている。

◆参考資料 87 「神戸女子短期大学 短大の現況と点検・評価(1995)」参照。

(2) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年(平成18年度～20年度)にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

平成18年度～平成20年度に自己点検・評価を行い、その結果を「『平成18年度改善目標・改善計画案に基づく自己点検報告』の評価報告書」及び「『平成19年度改善目標・改善計画案に基づく自己点検報告』の評価報告書」にまとめた。配付先は、神戸女子大

学である。平成 20 年度の自己点検・評価については本報告書をもってかえる。

- ◆参考資料 88 『平成 18 年度改善目標・改善計画案に基づく自己点検報告』の評価報告書 参照。
- 89 『平成 19 年度改善目標・改善計画案に基づく自己点検報告』の評価報告書 参照。

2【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成 20 年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

本学の自己点検・評価活動は平成 5 年以来、教職員一体となって取組んでいる。「短大の現況と点検・評価」(1995)の「自己点検・評価の実施及び結果の活用等の概況」に関していえば、「(1)教育研究活動報告の提出」は部科長を中心とする全教員が、「(2)授業評価の実施」は授業担当教員と助手が、「(3)学園三大学機構改善と諸規定の整備」は部科長と事務職員が点検・評価に直接的に関わった。これら自己点検・評価の企画、実施、データ分析、まとめ、報告書作成の全体を通してみれば、教職員のほぼ全員が関与している。平成 12 年度の中村学園大学短期大学部との相互点検においても、教育の理念・目的、教授方法、成績評価、学生生活、研究活動など点検内容は大学運営全般に及び、企画立案から報告書作成まで教員・助手・事務職員が総がかりで取組んだ。平成 20 年度の自己点検・評価では全教員と助手、短期大学事務職の部課長及び法人本部の部長等による自己点検評価全体会議を 5 月 27 日、6 月 24 日、7 月 29 日、9 月 30 日、11 月 25 日、1 月 27 日の計 6 回開催して全学の協力体制で取組んだ。特に授業評価アンケートに伴う多量のデータ処理は全助手が分担して貢献した。今後の自己点検・評価においても A L O を中心とする自己点検・評価委員会と部科長会が組織的牽引役を担い、全教職員が教育研究及び管理運営の改善充実を目指す短期大学でありたいと考えている。

- ◆参考資料 87(再掲)「神戸女子短期大学 短大の現況と点検・評価 (1995)」参照。

(2) 平成 20 年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

平成 18 年度と平成 19 年度は各評価領域の自己点検報告に基づいて改善充実を図り、その結果は評価報告書にまとめた。一例を挙げれば、平成 18 年度の評価領域Ⅲ教育の実施体制では「(4)授業用の機器・備品の整備状況及び整備システムについて」が改善課題となり、「講義室のマルチメディア化を更に推進するため、プロジェクター等のマルチメディア機器が設置されていない講義室への機器の設置を働きかける」ことを改善目標とした。そして、「平成 19 年度の機器設置を目指して予算要求を行う」ことを改善計画にあげ、年度末に「予算順位をつけて予算請求を行った」と自己点検報告した。評価部会はこの「改善計画の適切な実施が行われており、評価される」と評価した。但し、ここでは「全教室のプロジェクター等の設置状況の一覧表の資料添付が望ましい」との付

帯意見もつけられた。これを受けた平成 19 年度には教室のマルチメディア化を対前年比で 4 教室増を実現し、同年の評価報告書では教育研究用及び学生自習用の整備状況一覧を記載した。この他にも、平成 19 年度には評価領域Ⅰの幼児教育学科の教育目的・教育目標の明確化、評価領域Ⅱの教養科目の適正化、評価領域Ⅲの専任教員の業務状況の把握、評価領域Ⅳの単位認定など評価方法の適正化、評価領域Ⅴの入試合格者等に対する情報提供、評価領域Ⅵの教員の研究活動の把握、評価領域Ⅶの学科の特性を活かした地域貢献・交流活動の交流の拡充、評価領域Ⅷの教員と事務職員との事務分担の明確化、評価領域Ⅸの中・長期財務計画の策定など、各年度の自己点検・評価の結果を活かした大学教育の向上を図ってきた。今後もこうした取組みを堅守し、各領域各項目の自己点検・評価を着実に行って教育研究及び管理運営の充実改善を期したいと考えている。

◆参考資料 88(再掲) 『平成 18 年度改善目標・改善計画案に基づく自己点検報告』の評価報告書』(p. 29) 参照。

89(再掲) 『平成 19 年度改善目標・改善計画案に基づく自己点検報告』の評価報告書』(pp. 28-29) 参照。

3 【相互評価や外部評価について】

(1) 平成 20 年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

平成 12 年度に中村学園大学短期大学部との間で、双方の自己点検資料と相互訪問に基づく相互点検を行った。同 10 月 19 日と同 10 月 28 日に行った相互訪問では自己点検内容に関する相互質問と改善事項の指摘など忌憚のない相互点検をした。特に 10 月 28 日は短期大学基準協会向上充実委員会委員長坂田政二氏の立ち会いのもとで相互点検を行い、専門的立場からの評価を戴き、短期大学の在り方や相互点検の内容について貴重な助言を賜った。この報告書には「1. 神戸女子短期大学の概要」「2. 神戸女子短期大学の教育の理念・目的」「3. 神戸女子短期大学における教育運営組織」「4. 神戸女子短期大学の教育活動」「5. 神戸女子短期大学の教授方法の工夫・研究」「6. 神戸女子短期大学の成績評価、単位認定等」「7. 神戸女子短期大学における学生生活への配慮」「8. 神戸女子短期大学における研究活動」の各項目について評価結果を記載した。両大学はこれを公表し教育研究の充実改善に活かした。

◆参考資料 90 『神戸女子短期大学と中村学園大学短期大学部との相互評価』報告書』参照。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

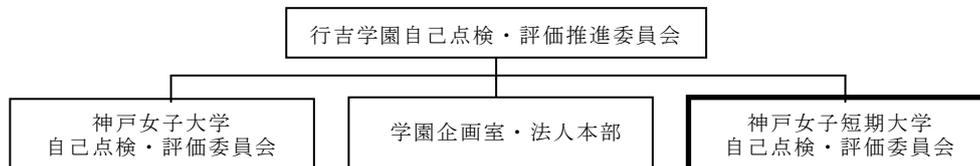
神戸女子短期大学自己点検・評価委員会規程の通り、自己点検・評価委員会が第三者評価（認証評価）や相互評価の推進母体である。今後もこの委員会を中心に、全学あげて定期的な自己点検・評価、第三者評価そして相互評価を実施する予定である。その際、コンプライアンスの精神を遵守し、7 年に一度の第三者評価とその間に行う相互評価を滞りなく履行して、本学の教育研究及び管理運営の充実と発展を図りたいと考えている。

◆参考資料 91 「神戸女子短期大学自己点検・評価委員会規程」参照。

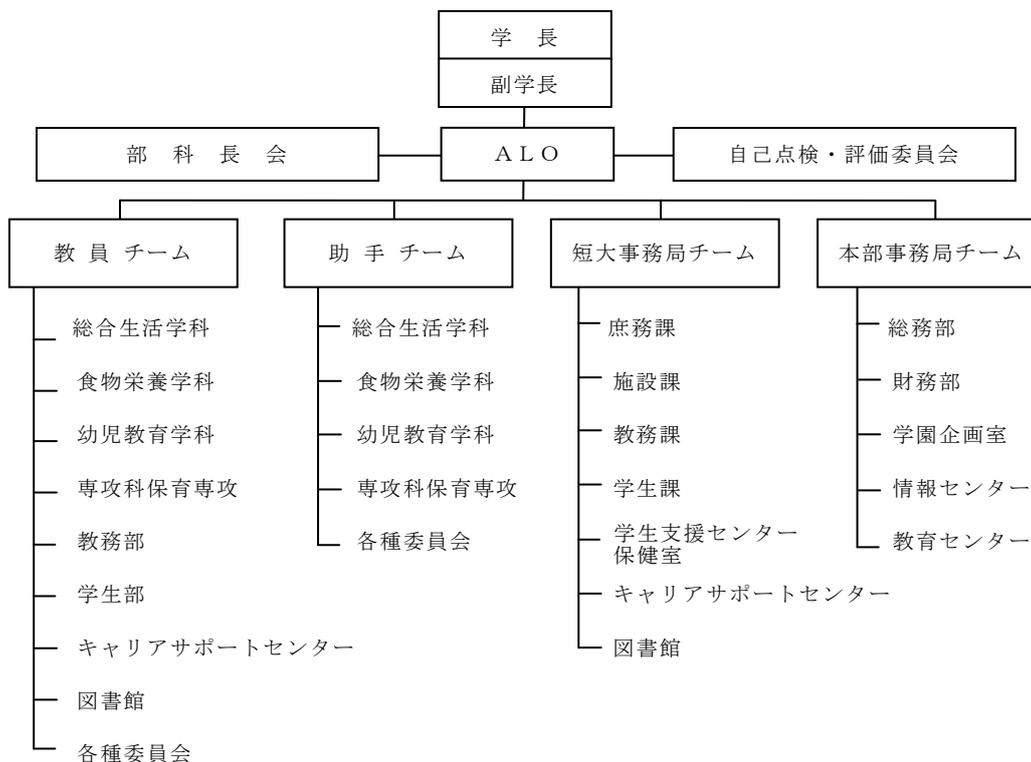
4【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

①学校法人行吉学園の自己点検・評価の組織



②神戸女子短期大学自己点検・評価の実施体制



(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

<理事長>

本学は、戦後の短期大学制度の発足と同時に設立された短期大学であり、日本で最も古い短期大学の一つである。爾来50有余年、建学の精神を基に「学生一人ひとりを大事に育てる」という創立者の教育理念を推進し今日に至っている。創立者は平成15年に逝去するまで、学園のトップとして常にこの信念を持って学園運営にあたってきた。その間に送り出した多くの卒業生が様々な分野で活躍し、高い社会的評価を得てきていることは本学の誇りであり、着実な発展を遂げてきた証であると考えている。

今回、第三者評価を受けるにあたり、日頃の自己点検・評価を精査し体系的にまとめることができたことは、とかく自己満足に陥りやすい自己点検・評価の質的向上を図る

ための貴重な機会と受け止めている。この評価結果を社会に公表することは、学生・保証人・卒業生をはじめ全ての学園関係者に社会的責任を果たすことになる。評価結果を真摯に受け止め、全教職員が真の大学教育を目指し一層努力することを願うものである。

<学長>

現在、学長は神戸女子大学の学長を兼務しているが、神戸女子大学も平成 21 年度に大学基準協会の認証評価を受けることにしている。そこで強調しているのは、第三者評価が義務付けられているから報告書を作成するのではなく、学園が自身の諸活動に対する改革・改善のビジョンを示し、認証機関からそれに対する助言・支援を受けるのが第三者評価であり、その結果を積極的に社会に公表するという姿勢である。したがって自己点検・評価は、本学の価値を社会にアピールする絶好の機会と考えている。そのためには、学園の全構成員が点検・評価の諸側面についてステークホルダーの思いを見極め、問題点について真剣に改善策を導き出すための方策を検討しなければならない。神戸女子短期大学が自らの個性・特色を社会に発信し、地域への貢献と共生を続けていくためには、自己点検・評価のプロセスを避けて通れないという使命感を持ち続けたい。

<副学長・ALO>

本学は平成 5、6 年度の自己点検・評価、平成 12 年度の中村学園との相互点検など、早期より自主的な自己点検・評価に努めてきた。平成 17 年度以降は、短期大学基準協会の評価基準に沿った自己点検・評価へと改善し、教育研究及び管理運営の充実発展のための新たな手掛かりを得ることができた。この度の第三者評価を契機に、高等教育機関としての社会的使命をより一層自覚し、教育環境の充実を図りたいと考えている。短期大学の発展は、受験生に魅力ある教育内容、在学生在が満足する教育実践と施設設備、卒業生が満足する進路保障が不可欠である。この観点からみれば本学に課せられた課題は多く残されており、今後も学生や社会に誠実な教育機関であり続けたいと思う。

5【特記事項について】

(1) この《X改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

本学の自己点検・評価の柱は、①短期大学基準協会の評価基準に基づく自己点検・評価」と②「学生満足アセスメント」を活かした自己点検・評価である。とりわけ、②に関しては、学生の満足度を確かめながら自己点検・評価を行うことを教職員で申し合わせ、自己点検・評価が教職員の独善に陥らぬよう学生生活満足度調査や授業評価アンケートを自己点検・評価の貴重な手掛かりにしている。そのため専用のOCRを導入することによって学内でデータ処理を行い、日常的で機動性に富んだ調査分析を行っている。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

該当なし。